

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200935		
法人名	有限会社 敬仁会		
事業所名	グループホーム万富の郷		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町万富1871-1		
自己評価作成日	平成24年1月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3372200935&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成24年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年目標の外出、外食も熊山英国庭園へ春、秋に出かけ季節のバイキング料理を堪能していただきました。フェイスシートも徐々に新しい状態が書き込まれ、たよりに現状の報告に努め、家族より協力をいただいている。今年も入居者の食べる事の楽しみを重視し、旬の食材で手作りの食事を提供し、元気に暮らして頂きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「この地域に少しでも貢献したい」という強い思いを抱いて「万富の郷」を立ち上げて、もう7年目となる。「ようやく思い描いてきたグループホームらしくなってきた」と笑顔を綻ばせる管理者と、職員のケアの隙間を埋めるように目配りをして回る代表者、お互いの気持ちを一つにして明るく利用者に寄り添う職員が、今のこのホームを支えている。「私は死ぬまでここでやっかいになろうと思っています」「こんなに美味しいものを三度三度戴けて幸せです」と話してくれる利用者と、「認知症になってくれたからこうして皆さんと出会えた!」と喜ぶ職員は、状況が許せば最期の時まで共に楽しく過していこうとしている。自立した暮らしを目指し、なかには「ホームのお母さん」もいて、それぞれに、いきいき・はつらつとした良い笑顔がみられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は地域密着型サービスの意義を理解し地域との交流をはかり、調和して生活している。	ホームの理念はリビングルームによく見えるように大きく掲げられており、時には利用者と職員と一緒に読む事もある。職員会議や重視してきちんと実施している朝の申し送り時等に、具体化してよく話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の生協に加入、移動商店の利用、区の夏祭りに参加、畑の作物の差し入れなどがある。	地域とのつながりを一番大切に考えており、年々その幅や深さを広げてきた。地域の文化祭には日々丹精こめて作った種々の作品を出品し見学に行ったり、餅つき大会やお祭り等では老人会や子供達との交流がとても楽しそう。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の会合で介護相談にのったり、運営推進会議で認知症の相談の呼びかけをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状や予定、前回の検討事項への経過報告をし、家族を含め参加者の意見をもらうと同時に交流を図っている。	2か月に1回定期的に、地域包括の職員・区長・老人会会長・民生委員・家族等が参加して実施している。ホームの現状や活動内容がよく理解できる会になっており、特に、災害対策等ではこの会を通して地域の方々の協力を得ている。	運営推進会議の内容に変化を持たせたり、参加者を増やす等工夫を加えるとより効果的な会になるかも知れない。利用者本人がこの暮らしについて発言できるような場を持つしてみるのも良いだろう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員、包括支援センター担当者に現場の実状を知ってもらい協力体制を図っている。	市の担当者の運営推進会議への参加はなかなかいただけないし、他の市町村のように行政がリードして関係施設間の情報交換や連携の場を持つ状況には至っていないが、日頃から相談や指導はしてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が対応方法を徹底し自由で安全な生活を支援している。	「身体拘束が何故問題なのか」「現在のケアで拘束につながっていることはないか」等、研修をしている。もし安全への配慮からやむを得ず身体拘束をせざるを得ないことがあれば、マニュアルに従って、最少限で実施する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアを発見したら対応方法について話し合い、決してしないと確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用している入居者があり、制度の理解に努めている。月に一回情報の提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時事業所の方針をしっかりと理解してもらい、対応可能な範囲について説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	万富の郷便りで、毎月連絡欄を設けざっくりぱらんに状態を伝え、面会時何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。	毎月発行している便りで全体に、また個々に情報提供しているが、家族からの反応が少ないという事で、前年度目標達成計画にこの項目を選んだ。目に見える程の効果はまだ見られないが、面会等で便りの記述を引き合いに出す等して、意見を出してもらうようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を開き意見交換をしている。出来ることはその日より実行している。	職員会議を始めとして日々の申し送り(ミーティング)等できめ細かな情報交換や話し合いがよくなっている。さらに最重要な事については職員にはよく見える位置に白板を設置して徹底するようにした。意見を取り入れたらすぐ実行してみるようにもしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も勤務に入り入所者と過ごしたり個別に職員の業務や悩みの把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加の呼びかけとヘルパーなど資格の修得も勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部区内に関連の事業所の集まりがあり昨年より参加して情報交換や質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で本人が置かれている状況を理解し、本人の思いや不安を受け止めるよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、どのような対応ができるのか事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人や家族の思いや状況を確認し、改善に向けた提案で必要なサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たずお互い協力しながら穏やかな生活ができるよう声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日ごろの状態をこまめに伝え、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の知人の面会があったりつながりを継続できる支援をしている。	「ここに居ると聞いたんで」という友人や近所の人達が来てくれたり、買物のついでにちょっと覗いてくれる人も居て、こういった馴染みの人の訪問を大切にしている。地域やホームの行事や買物の場でも良い出会いがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事のときは、職員も一緒に多くの会話をもち利用者同士が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても行事に招待したり差し入れがあったり交流は怠っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での会話より本人の意向を見出している。	職員は日々の関わりの中で、一人ひとりの利用者が発した思いや意向に重要なヒントが見え隠れしている事をよく知っている。それらを聞き流してしまわないで「これは」と思った言動を「個人別ききとり表」に記し、モニタリングやケアプランにつないでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の力を借り生活歴やライフスタイル、価値観等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の生活リズムを把握し、本人への働きかけを記録するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に日常生活の中で思いや意見を聞き、職員全員で意見交換、カンファレンスを行っている。	「できる事は何でもしたい」「動けるようになりたい」「何でも食べたい」等、本人・家族の思いが十分伝わり、その意に添うようなプランが作られている。モニタリングも綿密に実施しており、色々なチャレンジのチャンスを作って試しているのは素晴らしい。	昨年度の目標達成計画に掲げた「フェイスシート以降の情報を追記し、ケアプランにつなぐ」取り組みはとても素晴らしいと思う。追記の形式や欄をもっと分かり易く、見易いものにすれば、さらに有効な資料になると思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、気づきノートの作成、日々の申し送りですべての職員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院、送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に包括支援センターの職員が参加するようになり情報交換、協力関係が強化された。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得するかかりつけ医での受診、往診としている。家族への情報も怠らないようにしている。	地域の提携医とは良い協力関係ができており、定期的にまた、急変時も往診してもらえるので安心だ。また家族が以前からのかかりつけ医の受診につき合うこともある。今日もFさんは眼科の受診に家族が同行し、昼食も共にしてきたと言う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、健康管理、状態の変化に応じた支援を行えるようにしている。いないときは記録を基に連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を作成し短期間の治療とスムーズな退院ができるよう、積極的な支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を踏まえ事業所が対応しうる最大の支援方法、方針を話し合い、取り組んでいる。	ここ1年位の間に4人の利用者の最期を看取った。どんな場合でもターミナルケアをやりますというのではなく、その都度慎重に対応しようとしている。職員はこういった経験を重ねる毎に成長し、人の生と死の重みをずっしりと受け留めて、次のケアにつないでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生マニュアルを作成し、夜間の連絡方法等、ケースの想定をしながら話し合いを繰り返している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回訓練を入居者とともにやっている。地域の協力体制も運営推進会議で呼びかけている。	運営推進会議等で災害時の地域との協力体制についてよく話されている。去年は火災報知機等の工事も完了し、年2回実施している避難訓練時には通報装置を試してみた。ホームが平屋で非難は比較的し易いが、近所の人の応援をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい尊厳ある姿を大切にし、目立たず、さりげなく自己決定しやすい言葉かけに配慮する。	一人ひとりの尊重を重視しようとするホームの姿勢は、個々の訴え等をメモに残す「個人別ききとり」のファイルに見られるし、フェイスシートの充実を目標達成計画に取り入れている事からも伺われる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と過ごす時間を通して、希望、関心、施行を見極めそれを基に本人が選びやすい場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが時間を区切った過ごし方にせず、できるだけ個別性を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元理容師に本人希望の髪型にしてもらったり着替えの服を選んでもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一日の大切な活動の場の一つとし、入居者とメニュー作り、調理、盛り付け、片付けを行っている。	畑から取ってきた野菜を下拵えする人、収穫していた黒豆の皮を延々と剥いてくれる人、今日は受診で留守だが台所を一手に引き受けてくれる人等々、できる人はそれぞれの役を分担して食事作りをしている。品数も栄養バランスも良く、美味しい食事はここが一番の自慢である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量のチェック、主治医より高カロリー補助食品を出してもらっている人もいる。食べやすい物の提供と体重のチェック。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は見守りできない方も本人の力に応じた歯磨きの手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄を支援している。スムーズに誘導できるよう声掛けに特に配慮している。	在宅や他施設からこのホームに入居すると、すぐに改善して「おしめから紙パンツへ」「紙パンツから布パンツへ」と移行する例が多いと聞いた。排泄の自立支援へ向けた種々の試行の過程で「じゃあ、こうしてみよう」といった積極的な提案が良い結果をもたらしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や食事メニューを工夫し、水分補給に努め、体を動かすことの大切さも伝えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を取り入れ、入浴の順番など配慮し、体調に応じて安全でスムーズな入浴を工夫している。	入浴は2日に1回、午後の時間帯に楽しんでもらっている。激しい入浴拒否の人は今はいないが、本人の訴えや希望を受け入れ、柔軟な対応をしている。その人の状態によっては入浴よりも丁寧な清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズムを整え日中の活動を促し、場合によっては家族、医師と相談し薬剤の調整に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量の変更と本人の状態の変化を観察し医師への連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝いや野菜のしょうやく、干し柿づくり、縫い物など本人の得意分野で発揮してもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、外気浴はもちろん、昨年は外食にも出かけられ季節の行事を味わってもらっている。	戸外の行事の楽しみを増やそうという昨年度の目標に従って春秋の2回熊山の英国庭園でバイキング料理を楽しんだ。日常的には今日の様な特別な寒さの日は別として、散歩や買物・菜園での活動等、お出掛けしている。家族と一緒に掛ける事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と相談し金銭の管理に取り組み使途に関しての報告も必要に応じ行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	見舞いの絵手紙が届いたり、ちょっとした頼まれごとの連絡時に声を聞いてもらうように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の季節感や生活感を大切にしているのフロアづくりに努め家庭的な雰囲気を味わってもらえるようにしている。	ほとんどの利用者は日中はホールで過ごしている。職員は心身のリハビリにと、様々な活動内容を提案し、本人が乗ってくるものを捜している。今日はカレンダー作りに集中していた。これらの作品や日頃の活躍の写真もホールでみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間はすべてが視野に入りやすいためソファコーナーや長椅子でくつろげるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向や状態に合わせ、畳かベットを選んでもらい、その人らしく居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。	冷え性の人には特別な足袋を、皮膚の状態が心配な人には特殊なマット等を、それぞれの身体の状態に合わせた工夫をしてより居心地の良い居室にしている。居室の壁にはホールで作製したカレンダーや自分の作品を掛けて楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身機能の状態変化に考慮し入居者の現在の状態に応じた環境の整備に努めている。		